

DAMPC

STEREO DOR 0171

Female Vocal Forever

倍賞千恵子

さよならはダンスの後に

さくら貝のうた

下町の太陽

伊東ゆかり

小指の想い出

恋のしずく

愛のわかれ (NON PENSARE A ME)

ザ・ピーナッツ

可愛い花

ウナ・セラ・ディ東京

情熱の花 (PASSION FLOWER)

岸洋子

夜明けのうた

希望

サン・トワ・マシー

制作にあたって

日頃は第一家庭電器をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。

今春、制作したVIP・CD「Female Vocal In My Heart」は、大変好評をいただいております。

そのVIP・CDを企画する際に、オリジナルのアナログ・マスターを試聴したのですが、過去、ラジオを通して聴きなじんだシングル盤に比べ、はるかに素晴らしく、感動的でした。しかしそれが、デジタル化され、CDとなったものを聴いて見ると、当然予想されたこととはいえ、かなりの情報量がダウンしており、CDだけ聴く限りでは、それなりにスッキリした音と、メロディに懐かしさを覚えるのですが、あのアナログ・マスターを聴いた時の、熱い感動が稀薄になっているのは否めない事実です。

最近、アナログ名盤のCD化が、急ピッチで進んでいますが、アナログ・マスターをそのまま細工せず、デジタル化してCDとした場合、アナログ・マスターに忠実な音とはならないためか、デジタル化の際、各種の音質調整等が施されることが少なく無いようです。

良くアナログ初期のレコードが、CD化されて、著しくその音が改善されたという話を聴きますが、これは、その初期のレコードが、当時のレコード製造設備や技術が未熟であったり、レコード化が注意深く丁寧に行われなかった等の原因により、アナログ・マスターとは似ても似つかない貧相なレコードとなってしまうからに他なりません。その後、きちんとした状態で、再発売されたLPは、かなりアナログ・マスターに近い場合が多く、これと、CD化されたものを比較すると、アナログ再生装置の水準がある程度以上であれば、LPの方が優れていると感じるケースが多いと思います。

又、アナログ・レコードは、減ると良くいわれますが、確かに超高域については、使用により、若干減衰するようですし、手入が悪いと雑音が増加したり、傷がつくことがあります。少くとも30年位は、充分使用に耐え得る思いの外丈夫なものです。CDは、むしろスリ傷により、エラーが多くなり音そのものに変化をきたしたり、傷の場所と形状によっては、全く音が出なくなることもあります。又、アルミの腐蝕の問題も完全にクリアされたわけでも無いようで、むしろCDは、その扱いと保存を、より慎重にする必要があるのではないのでしょうか。

ところで、本アルバムは、先のVIP・CDの

22名のアーティストの中から、倍賞千恵子、伊東ゆかり、ザ・ビーナッツ、岸洋子の四人を選び、それぞれ、誰でもご存知の大ヒット曲を3曲ずつ、12曲選曲いたしました。

過去のDAMシリーズの中で、大ヒットした流行歌を取り上げたのは、これが初めてですし、キングのザ・スーパー・アナログ・ディスクにもこの種のものは全くありません。

この12曲（現在、LPの市販盤は全て廃盤）を、オリジナル・マスターに一番近い状態——すなわち、過去発売されたどのLP、EPよりも最高の、DAM・キング・ザ・スーパー・アナログ・ディスク永久保存盤として発表できたことは、大変意義深く、光栄なことです。

当時の流行歌の録音傾向として、特にバックの編成、音質、バランスに問題がある曲も少からずありますが、ボーカルは、4人の熱唱がリアルな臨場感で収録されていて、素晴らしいの一語につきます。

この、全部、条件の異なる、シングル・オリジナル・マスターを6曲ずつ接なぎあわせた状態で、かつ、ザ・スーパー・アナログ・ディスクの条件でカッティングするという、至難なことを、実現していただいた、高和元彦プロデューサーと、牧野晃マスタリング・エンジニアのチームには心から感謝申し上げます。又選曲等にあたって協力をいただいた関正明氏を始め、キングレコード(株)、日本ビクター(株)及び関係各位に、あわせて厚くお礼申し上げます。

今後、アナログ・ディスクの制作は、極めて困難が予想されますが、次回、11月にはDAM第2弾ヨーロッパ録音（最新アナログ録音）を、ヨーロッパ・プレスのアナログ・ディスクでお届けするべく、準備中ですので、会員の皆様の更に一層のご支援のほど、お願い申し上げます。

DAM推進委員会 **DAMDC**

フィメール・ヴォーカル・フォーエヴァー

キングレコード・プロデューサー
高和元彦

10数年の伝統をもつDAMスーパー・アナログ・ディスクのシリーズに、当社の女性ヴォーカルが初めて登場したのは昨年(1989年)11月の「白鳥英美子／美しく青きドナウ」(DOR-0167)でしたが、これは1988年に主にウィーンで録音された新しい1枚でした。

それに対し今回は、キングを代表するベテラン女性歌手たちの、往年の大ヒット曲を集めた懐しくも楽しいアルバムが作られました(1990年6月)。これらは1960年代を中心に録音され、またヒットした曲で全部で12曲ありますが、そのうち半分以上は、日本レコード大賞を受賞しております。

ご存知の方も多いと思いますが、これらの曲は、当初まずシングル盤として録音されました。そのあとで、ヒット曲をメインにしてLPが制作される場合がほとんどでした。つまり、初めからLP企画として連続して録音されるケースは稀でした。（その点で前回の白鳥のアルバム制作とは異なります。）

今回のアルバムでは、さらにその中からのヒット曲をピック・アップして、各歌手3曲ずつを集めて編集しておりますので、それぞれの曲のマスター・テープの音質やバランスなどが多少違うのは止むを得ないことをご理解いただきたいと存じます。担当ディレクター、ミクサー、録音日、録音場所、伴奏オーケストラなども夫々に異なっております。

こうしたケースのカッティングでは、通常トーン・イコライザーやフィルターなどを使って、アルバム全体の音質やバランスをある程度補正する方法がとられます。

しかし、「スーパー・アナログ・ディスク」の場合は、このような補正手段は一切使わず、ダイレクト・コネクティングされますので、マスター・テープの音をストレートに音溝にカッティングしていることは申し上げるまでもありません。それは可能な限り高水準な音の鮮度を大切にすることを第一に考えているからに他なりません。そのためには個々の曲のオリジナル・アナログ・テープそのものを多数のリールから抜き出して、このDAMレコードのための曲順につなぎ変えてカッティング用の特別リールを作りました。つまり、オリジナルからダビングしたテープは一切使用していません。

次に申し上げたいことは、最近の録音はマルチ・トラック（例えば24チャンネル）に各楽器の音を収録し、ミックス・ダウンに際しては種々のエフェクターによって音作りをするのが通例となっております。しかし、この当時はそれらの手段も少なく、よりシンプル

に録音しておりますので、過度に加工された音色や歪などがほとんど感じられない素直な音であることです。

また、そういう音源だからこそ、ストレートなカッティングが可能だったともいえますよう。

前にも触れましたが、過去に発売されたこれらのヒット曲が、シングル盤（独特の音作りでカッティング）その後のLP、あるいは再発売CDなどと比較しますと、「スーパー・アナログ・ディスク」の究極のクオリティーで聴くキングの代表歌手たちのヒット曲は、20余年を経た今日、恐らく初めて最高の音質で皆様にお楽しみいただけるのではないかと自負しております。また、それ故に保存盤としての意味もあるかと存じます。

(1990. 3)

●カッティング・データ

Cutting Date : January 30, 1990
King Records, Tokyo
Tape Recorder : Neumann M-15A
Head Amplifier: All Tube
Drive Amplifier : All Tube-Parallel
Pushpull (Special Custom Made)
Cutting Lathe : Neumann
Cutting Head Neumann SX-74
Non Limiter, Non Equalizer,
Non Pass Filter

制作協力：株サンデュエット

企画・制作：第一家庭電器株式会社 **DAMDC**

製造：キングレコード株式会社

倍賞千恵子



さよならはダンスの後に

横井 弘・作詩／小川寛興・作曲・編曲 (3:39)



さくら貝のうた

土屋花情・作詩／八洲秀章・作曲／小川寛興・編曲 (2:28)



下町の太陽

横井 弘・作詩／江口浩司・作曲／小川寛興・編曲 (3:25)

伊東ゆかり



小指の思い出

有馬三恵子・作詩／鈴木 淳・作曲／森岡賢一郎・編曲 (4:00)

■曲目解説 (野村耕三)

美しいメロディー・メーカーとして、歌謡曲はもとより、映画・テレビ・舞台などと幅広い活動をしている服部良一門下の作曲家小川寛興の曲に、「あざみの歌」以来、数々の抒情的な歌謡詩でヒットを生み出している横井弘が詩をつけた、いわゆるハメ込みの歌で昭和40年3月に発売されました。

哀愁が漂う曲調なので「別れの歌。にと、女性の話しかけ言葉で綴られたこの歌、ちょうどそのとき「下町の太陽」のヒットのイメージが強すぎて、大人のムードに乗り切れなかった倍賞にはもってこいということと、彼女に白羽の矢が立ったのです。

ルンバ・ロック調のメロディーで、150万突破とレコード大賞作曲賞を得たこの歌をきっかけに、ポップス調の歌が、ひとつの勢力を占めるようになっていきます。

昭和24年7月にNHKのラジオ歌謡として、小川静江の歌で流れ好評を博し、翌25年1月にコロムビアから辻輝子の歌でレコードとなってヒットしました。

作曲家八洲秀章が、胸を病んで世を去った恋人への思いをこめて作った…といわれるこの歌、出来たのは昭和15年の夏だったといえますから、戦争と敗戦後の混乱とで、10年も世に出るきっかけを失っていたわけです。

それだけに、このセンチメンタルな中に香気あふるるメロディー。抒情的な美しい歌詞が、戦後の荒廃した大衆の心に沁み入って支持されたのでしょう。当時のラジオ歌謡の中でもことに女性に多くのファンを掴みました。

昭和44年に倍賞千恵子がリバイバルしてまたまたヒット。彼女もレパートリーのひとつに加え、大切にしているようです。

SKDから松竹映画に籍を移し、映画俳優として「花嫁シリーズ」で活躍中だった倍賞千恵子を、レコード五社で激しい争奪をした結果、キングが獲得し、そのデビュー盤として制作されたものです。

北区滝野川に育った倍賞のスターらしくない庶民性を生かして「下町」を意識して制作されたものですが、発売会議では否定的な意見が多く、そのタイトルさえ「あまりにも場末の印象…」と、ケチをつけられたとか。

その結果、倍賞の主演映画「裸足の花嫁」の主題歌「瀬戸の恋唄」と同時発売の、新人には異例のデビューとなったもの…、しかし文化放送の「全国歌謡ベストテン」で注目されて火がついてヒット、ついにはレコード大賞新人賞にも輝く成果を見たのです。

中尾ミエ、園まりとならんで渡辺プロダクションの三人娘と呼ばれながら、二人に遅れをとっていた伊東ゆかりが歌いヒット。二人に肩をならべるきっかけを作った歌です。

作曲の鈴木淳が、最初に歌手として考えていたのは倍賞千恵子だったようですが、「倍賞にはもっと演歌っぽいものを…」と断われ、そのあげく渡辺音楽出版社に話がつながったものです。そしてそこでも初めは園まり用でした。しかし伊東ゆかりの担当プロデューサーが「伊東ゆかりで売れる…」と力説、彼女が歌うことに着いたのです。

デビューして9年、まわり道をしように出世の遅れた伊東ゆかりが、そんな経緯の曲で花開いたというの、何か因縁めいた話です。

ともかく、さり気なく大人のムードを歌い上げた彼女の歌唱が光りました。



恋のしずく

安井かすみ・作詩／平尾昌晃・作曲／森岡賢一郎・編曲 (3:27)



愛のわかれ (NON PENSARE A ME)

音羽たかし・訳詩／Pros Scorilli・作曲／森岡賢一郎・編曲

ザ・ピーナッツ



可愛い花

音羽たかし・訳詩／S. Bechet・作曲／宮川 泰・編曲



ウナ・セラ・ディ東京

岩谷時子・作詩／宮川 泰・作曲／東海林 修・編曲

「小指の思い出」で、レコード大賞歌唱賞までも得るというヒットで、スターの座についた伊東ゆかりの地位を、不動のものとした昭和43年のヒット曲です。

布施明の「霧の摩周湖」で当て、作曲家としても脚光を浴びはじめていた平尾昌晃が、同じ渡辺プロダクションの梓みちよの「渚のセニョリーナ」に次いで書いたのが、この「恋のしずく」で、平尾もまた作曲家の地位を確かなものにしていきます。

「小指の…」と同じように、ビギン調の曲調で、やはり大人のムードを盛り上げて成功し、和製ポップス・ファンの層をぐんと広げる役割まで果たした感じです。

1967年のサンレモ音楽祭の入賞曲です。伊東ゆかりは9歳で歌手を志し、11歳のときに「クワイ河マーチ」でレコード・デビューを果たしていますが、その前は父親がベース・マンだったことから、父親について米軍のキャンプをめぐっていた時代があったようです。

それだけにポップス調のフィーリングは、キャンプで鍛えられたといえるようで、歌のスケールを大きく感じさせるのも、そんなことからでしょう。

歌のうまさ、歌を掴む才能にすぐれていて、どんな歌でもこなすという評価を得ているのも、ウェスタンやポップス以外に、こうしたカンツォーネさえ、自分のレパートリーに加えたからに他なりません。

東芝、ビクターと獲得合戦を演じ、キングが手にしたザ・ピーナッツのデビュー曲です。

一卵性双生児の彼女たちは、ピーナッツの名のとおり小柄で可愛らしく、一つの質問に全く同時に返答をするなどはもちろん、風邪をひくのも一緒、お腹をこわすのも一緒といったつながり、それだけに息もぴったりのフィーリング、ハーモニーもいうことなしで、一躍ファンをつかんで、この曲をヒットさせました。

原曲はジャズのS・ベシエの1952年（昭和27年）の作品で、妻に捧げた愛の歌だといいます。

アレンジの宮川泰がつきっきりでピーナッツを指導、可愛い花を咲かせました。

イタリア語で「東京の夜」という意味ですが、岩谷時子・宮川泰コンビのれっきとした日本の作。昭和39年にザ・ピーナッツの歌でヒット、一世を風びしました。

「可愛い花」「情熱の花」など、外国曲のヒットを持つザ・ピーナッツが、前年の「恋のバカンス」に続く作品で、夏のバカンスに対し、秋のムードをねらったもの。最初「東京たそがれ」のタイトルで、歌詞に「トワイライト・イン・トーキョー」を英語で入っていましたが、当時カンツォーネに人気を集っていたので、イタリア語の方がアッピールすると変ったものです。

ザ・ピーナッツの発音が「トーキョー」と外人風であったことで、批判もうけましたが、それがまた人気で、マヒナスターズとの競作に水をあけたのです。



情熱の花 (PASSION FLOWER)

音羽たかし・訳詩／G. Garfield・作曲／宮川 泰・編曲

岸 洋子



夜明けのうた

岩谷時子・作詩／いずみたく・作曲、編曲



希望

藤田敏雄・作詩／いずみたく・作曲／川口 真・編曲



サン・トワ・マミー

岩谷時子・訳詩／S. Adamo・作曲／若松正司・編曲

「可愛い花」のデビュー・ヒットで、歌手として花開いたザ・ビーナッツが、それに次いで放ったヒット。これで彼女たちはスターの座をつかみ、第一線での活躍を確かなものとししました。

ベートーヴェンのピアノ曲として、多くの人に知られる「エリーゼの為に」をアレンジし「パッション・フラワー」というタイトルで、歌詞を付したのも。1959年（昭和31年）にカテリーナ・ヴァレンテが歌いヒットしていたものを移入し、ザ・ビーナッツのものとなったのです。

カテリーナ・バレンテは、歌のはじめの方を一人で二重録音してハーモニーをつけましたが、そこはザ・ビーナッツ、手間をかけずにきれいなハーモニーを聞かせました。

越路吹雪のマネージャーのかたわら、彼女のために数々のシャンソンの訳詩をし、またオリジナルも書いて、すぐれた才能を示している岩谷時子の詩に、その岩谷とのコンビでしばしばヒットを出している「いずみたく」が作曲したもので、昭和39年10月岸洋子が歌ってヒットしました。ひと月遅れで東芝から坂本九も出しました。

女性の作品らしい言葉のやさしさ、ポピュラー調のモダンで覚えやすいメロディー、岸洋子のすばらしいフィーリングがぴったりとマッチし、ヒットに結びついたもの。

岸洋子はこの歌で第6回レコード大賞「歌唱賞」を得ました。

健康を害してオペラ歌手を断念し、シャンソン歌手になった岸洋子は、「夜明けの歌」「恋心」のヒットで、シャンソン界のヌーベル・バーグと騒がれたデビュー時の期待に応えたわけですが、その歌唱力の高さを、さらに認識させたのがこの歌です。

岸洋子はこの「希望」が売れ行きを伸ばしている最中の昭和45年10月、巡業先の郷里酒田市で膠原病のために倒れ、1年半の入院生活を送った後退院して再び活躍をはじめ、ファンの胸に「希望」の灯をともしましたが、再び病に侵され、現在闘病中です。

「希望という名の あなたのあの歌、そうよあなたに また逢うために…」と彼女の歌にもあるように、一日も早く元気な姿を見せて欲しいものです。

日本にファンの多いシャンソン歌手、S・アダモが、1962年（昭和37年）に作り、自分で歌ってヒットさせたもので、この歌で彼もまたスターの座につきました。

日本では昭和39年に岩谷時子の詩で越路吹雪が歌いヒット。彼女の代表的ナンバーに加えられました。そしてその後、岸洋子もレコーディングしてあとを追いつ、これもまた大評判をとってヒットしたものです。

失恋の苦しみを内容としながら、明るい曲調がこれを救って、多くの女性ファンの心を掴んだのでしょう。シャンソニエなどでは今でも高い人気を保ち、スタンダードとしてよく歌われる歌のひとつです。

THE SUPER ANALOGUE DISC

スーパー・アナログ・ディスクについて

●制作意図

すべてアナログ録音のマスター・テープを使用している〈スーパー・アナログ・ディスク〉は、アナログの持つ独自の魅力を可能な限り追求した特別製のハイ・クオリティー・ディスクです。

レコードの主流はコンパクト・ディスクに移り、そのCDにもいくつかの長所があることはご存知の通りです。

しかし、長年にわたり多くのノウ・ハウを蓄積してきたアナログ・ディスク(AD)には、先端技術の産物CDでも得られない、物理特性を越えた音楽の世界が存在していることは既成の事実です。私たちはそのアナログ・オーディオのソフト技術をさらに深く研究・開発し、音を磨きつづけております。

〈スーパー・アナログ・ディスク〉は、すでに国内はもとより、広く欧米にも知られるところとなり、高い評価が与えられております。

音楽とオーディオを本当の意味で理解し愛する皆様に聴いていただくことを目標に、〈スーパー・アナログ・ディスク〉は制作されております。

●〈スーパー・アナログ・ディスク〉のどこがすぐれているか

①**周波数帯域**：このために使われたカッティング・システムは10Hzから50kHzの非常に広い帯域をもっております。したがって、ここに選ばれたマスター・テープの持つ帯域は最大限に収められています。

その充実した重低音から、豊かな倍音を含む超高域までが再現されております。

②**トランジェント特性**：音の明快な立上りからは、瞬発力とスピード感のある迫力が得られ、また卓越した解像度が生み出されています。

③**ダイナミック・レンジ**：技術的にはノイズ・レベルから最大レベルまでの広さを指しますが、ここでは音楽上のピアノシモからフォルティシモまでの聴感上のエネルギー感(ダイナミックス)の幅の広さをより大切にしました。たとえばフォルティシモではアナログ独特の緊張度の高い音量感が聴かれます。

④**低歪率**：清澄な透明感と混濁のない音質は、解像度をよくし、いくらボリュームを上げて再生しても決して耳ざわりな音にはならないはずです。

⑤**情報密度**：アナログ独特のなめらかな音質により、楽器や声のもつキメ細かい粒子や肌ざわりが得られ、AD本来の人間性に基いた持味を十分に再現しております。そこから

導かれる演奏家の微妙な表情の変化や音楽に求める深い感動は、ハード優先の“オーディオの快感”とは本質的に異なるものです。

●〈スーパー・アナログ・ディスク〉の制作工程

①**ダイレクト・コネクティング**：再生用テープレコーダーのヘッド・アンプから、カッティング用のパワー・アンプまでをダイレクトに接続し、その間のたとえばグラフィック・イコライザー、フィルター、リミッターなどは一切介在させておりません(ブロック図参照)。その結果、マスター・テープの信号をフラットにカッター・ヘッドへ伝送することができ、音質劣化やトランジェント特性は著しく改善され、ナチュラルで鮮度の高い音が得られております。

そのため、テープに含まれている多少のヒスやハム・ノイズ、暗騒音(特に重低音域)、指揮者の足音などもそのまま記録されていることを予めおことわりしておきます(これは周波数帯域が広いためであり、また技術的にも一切修正していないからです)。

②**ハーフ・スピード・カッティング**：テープとカッティングの速度をそれぞれ $\frac{1}{2}$ に落としてゆっくり切込むことによって、音溝の精密度を高め、広大な周波数帯域によって情報量を最大に収録しています。

この技術は高度の熟練を要し、特に〈スー

パー・アナログ・ディスク〉では溝の幅も最大280から最小30ミクロンと広く深くカッティングされており、(通常は80~30ミクロン)、マキシマム・レベルがいかに高いかを証明しております。

③**管球式アンプ**：ハイ・パワー(実効出力、300W+300W)のカッティング・アンプと、ヘッド・アンプはすべて当社の技術陣が開発した特別製の管球式を採用しています。これにより、余裕のある容量と、アナログ・サウンドの豊かで温かな音楽性を十二分に伝えております。

④**超多重量盤**：約180grの重さをもっております。これは通常レコードと比べてさらに60%以上の重さとなります。それによって、前述した深い音溝にも対応できるとともに、レコード演奏時の盤の共振を大幅に減少させます。特に大きな音量レベルのときや低音域を安定させるために大変効果があります。

⑤**高品質材料**：極めて慎重なメッキ工程による金属原盤の製造と相まって、厳選されたプレス原料と特殊な原料加工技術によって、ラッカー・マスターに収録された情報に非常に近い音質が得られ、SN比も改善されております。

このように「スーパー・アナログ・ディスク」は、通常のADとは別の製造ラインによる一種の「手作り」のレコードであります。

●再生上のご注意

①**カートリッジとプレーヤー・システム**：針先の摩耗やホコリの附着には特にご注意ください。できればレコード片面ごとに針先のクリーニングをおすすめします。

また、針圧は適性針圧か少し重くして下さい。

②**盤面のホコリ**：音溝が深いため、溝の底にホコリが入り込まないように方法で除去して下さい。かえってノイズが増えることがあります。

③**アンプ**：前におことわりしましたように、ヒスや低域等のノイズは、コントロール・アンプにおいて調整して下さい。また、メイン・アンプは出力の大きい余裕のあるものほどダイナミックな効果が発揮されます。

× × ×

ハイ・エンド・ユーザーを始め、ある程度のグレードの再生装置をお持ちのレコード・ファンの中に、CDの再生を体験された上でもなお、ADの音の魅力を再認識される傾向がみられます。そうした皆様に、アナログのすぐれたプログラム・ソースとしてこの〈スーパー・アナログ・ディスク〉を十二分にお楽しみいただけることを念願する次第です。

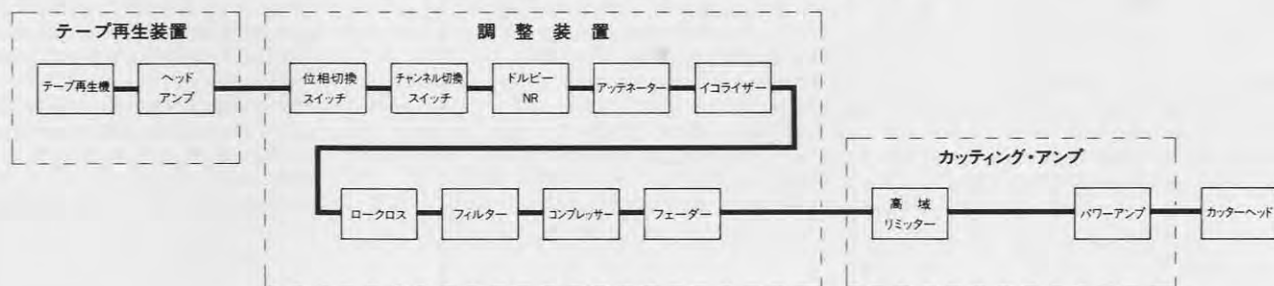
【'90.7 高和元彦】

ダイレクト・コネクティングのブロック図

〈スーパー・アナログ・ディスク用カッティング・システム〉



〈ノイマン VMS カッティング・システム〉(通常の例)



〈スーパー・アナログ・ディスク〉キングレコード制作スタッフ

プロデューサー：高和元彦
A&R：福田 稔
マスタリング・エンジニア：牧野 晃
アシスタント・エンジニア：
青木輝彦、西田尚雄
ディスク製造：日本ビクター株式会社